

JIA建築セミナー2019

# Making Architecture Together

## —環境と人間

建築は環境と人間をつなぐものです。

人間を取り巻いている環境は、組織、社会、地球という共同体であるなら、建築を考えると同時に、常に人間の周りを取り囲む自然環境や共同体のあり方も考えていきたいと思っています。

そのためには、連続的な視点の移動が必要です。すなわち外側から内側を俯瞰することが大切だと思っています。自然を見るには地球という視点から、私を見るには組織から自分を見つめ、組織を見るには社会から、社会を見るには世界を俯瞰することが必要です。

視点を変えるにはどうすれば良いでしょうか。それは自ら積極的に共同体を脱出し、自分が異邦人となりつつ、他者を共同体に取り入れることが考えられます。

そこで起きる感情とはストレスでもあり、楽しさでもあります。人類の圧倒的クリエイションである進化は、そのような「ワクワクドキドキ」によって、新しい環境を構築してきた人類の歴史でもあります。

今年度の建築セミナーは、過去と現在と未来を通して、環境と人間を考えたいと思います。一年を通した他者との対話、視点の変化は、既存の共同体を俯瞰する視点の獲得であり、魅力的な環境をつくる最良の方法となるでしょう。

**Making Architecture Together**  
共に建築を作りましょう。

### 小堀哲夫 Tetsuo KOBORI

1971 岐阜県生まれ  
1997 法政大学大学院工学研究科建設工学専攻修士課程修了  
1997 久米設計入所  
2008 小堀哲夫建築設計事務所設立  
ROKIグローバルインベーションセンターでJIA日本建築大賞、  
日本建築学会賞(作品)、ほか受賞歴多数

### 実行委員長

小堀哲夫 [小堀哲夫建築設計事務所]

### 実行委員

白砂孝洋 [白砂建築設計事務所] / 須川真紀子 [須川ラボ建築設計]

菅原大輔 [SUGAWARADAISUKE 建築事務所]

勝矢武之 [日建設計] / 馬場兼伸 [B2Architects]

前田道雄 [アーキプロ] / 間部賢太郎 [三菱地所設計]

三浦洋介 [久米設計]

### JIA 建築セミナー趣意書

人の生きる環境の形を決める建築家は、常にその社会的責任に対する意識を新たに、技量の継続的向上に努めなければなりません。建築家とは、「なる」ものではなく、むしろ「なり続ける」努力によって成立する職能なのです。

私たち、日本建築家協会の使命の一つは、会員相互の交流と切磋琢磨をつうじて、こうした自己研鑽の機会を広げることにあります。そうした機会は、会員にはもちろんのこと、未だ会員になっていない若い方々に対しても開かれなければなりません。

現在の日本の建築教育はほとんど大学に任されており、また、その期間が限られているためあって、建

築家としての意識と見識を養うためには、甚だ不十分な域にとどまっています。そして、そこに学んだ若者が卒業して一旦社会に出ると、自己研鑽を積み続ける機会に恵まれないのが通例です。

そうした状況に鑑み、私たちは会員及び会を支援して下さる各界の知的リーダーたちの蓄積を、建築家への道を歩み始めた若い方々に受け渡し、建築家に「なり続ける」機会の一つを提供するために「JIA 建築セミナー」を開設しました。

このセミナーは、1978年以降の歴史を誇っております。42年目にあたる2019年度も、長年の間に培われた良き伝統を受け継ぎつつも、時代の状況に応じた新風を織り込んでセミナーが開催されますので、一層のご理解とご鞭撻をお願いいたします。

# JIA建築セミナー2019 | スケジュール | 2019年5月18日 - 2020年2月(予定)

## PROJECT 0 開講 | 公開講座 | 海外で風景をつくること デザインと振舞いの戦略——海外を拠点とする日本人若手建築家たちとその未来

グローバル時代です。現在、海外を拠点に、新しいデザインと振舞いの戦略を展開する日本人建築家たちにお話を伺い、若手建築家の未来を展望します。

**01 5月18日[土]13:30-15:30 | 座談会 | 寺本健一** [建築家、ibda design/ドバイ+東京] + **小堀芳秀** [建築家、KOBUI Architects/パルセロナ] + **渡邊竜一** [ネイ&パートナーズジャパン/東京+ブリュッセル]

## PROJECT 1 北九州と下関の近現代建築を巡る——レーモンドや磯崎の名作から梅光学院大学新校舎まで

北九州には多くの近現代建築が残されています。門司ゴルフ倶楽部(1960年、アントニン・レーモンド設計)や北九州市立美術館本館(1974年、磯崎新設計)等を見学し、プレミアムホテル門司港(1999年、アルド・ロッシ+モリス・アジミ設計)を宿泊体験します。また、下関では梅光学院大学新校舎(2019年3月、小堀哲夫設計)にて樋口紀子学院長と小堀哲夫氏によるレクチャーを聞き、教員や学生を含めた交流や対話によって生み出された、究極のアクティブラーニングを追求したオープンな公共空間としての大学の在り方を体験します。

**02 03 6月23日[日]-24日[月] | 1泊2日 | 見学 | 小堀哲夫** [建築家、小堀哲夫建築設計] と **巡る北九州と下関の近現代 | 北九州の案内・解説: 古森弘一** [古森弘一建築設計事務所]

## PROJECT 2 多世代のつながりを生む空間づくり

まちづくりへの鋭い感性と発想の転換が、多世代の人々が集まる新たな公共の場を育てています。地元の人で賑わう、空家を活用したデイサービス施設「タガヤセ大蔵」や「食」を通じて誰もがあつまれる一軒家のコミュニティスペース「ふかさわの台所」、両国・森下にある近隣の住人が運営し、様々な活動を受容する「喫茶ランドリー」など、地域に住む人を巻き込むプロジェクトが成功し、賑わいを創出しています。その時プロジェクトを牽引したリーダーはどのような考え方をもっていたのか。

こうした場所は行政の整備する「公共施設」「多世代交流施設」とは全く異なるアプローチから生み出されています。建築に携わる我々が必ず求められる「公」の捉え方と、多世代がつながる具体的な空間と時間を体感し、学びます。

**04 7月6日[土] | 見学+講義 | タガヤセ大蔵** (オーナー/安藤勝信/アンディート) + **ふかさわの台所** (成見敬見)

**05 7月27日[土] | 見学+講義 | 喫茶ランドリー** (田中元子/グラントレベル)

## PROJECT 3 2020年、東京五輪・パラリンピックの施設見学と木材活用

国産の木材利用が叫ばれています。静岡県富士市のヒノキ材を活用した、2020年東京五輪・パラリンピックにおいて式典会場やメディアセンターが入る施設「選手村ビレッジプラザ」(2019年、日建設計)を含め、オリンピック施設に関わる建築を設計者、勝矢武之氏の案内で見学し、講義も受けます。また、木材組合から補助金の仕組みも伺います。

**06 07 8月** (日程調整中) | **講義+見学 | 勝矢武之** [建築家、日建設計] **ほか企画中**

## PROJECT 4 土曜サロン——1970年代生まれの建築家の対談

アトリエ事務所から独立した平田晃久氏(2005年、平田晃夫建築設計事務所設立、京都大学教授)と組織事務所から独立した小堀哲夫氏(2008年、小堀哲夫建築設計事務所設立、法政大学兼任講師)は、共に1971年生れです。それぞれの建築観とこれからのための忌憚のない対談を依頼しました。土曜日の午後、受講生も交え、建築についてのシビアで愉快な雑談を楽しみましょう。

**08 9月28日[土]13:30-15:30 | 対談 | これまでの建築観とこれから(仮) | 平田晃久** [建築家] + **小堀哲夫** [建築家]

## PROJECT 5 コンピュータショナルデザインの未来形

刻一刻と進化を遂げるデジタル技術を用いたデザインはアーキテクチャの定義を拡張し続けています。デジタルファブリケーションを用いたデザインをユーザーに開放し、デザインリテラシー×地域をデジタル技術によって同時に進化させる秋吉浩気氏と、アルゴリズムックデザインからインタラクティブシステムまで幅広く取り組み、それらを建築情報学という学術として深化させる豊田啓介氏、2人の異なるアプローチからアーキテクチャの未来を垣間みまます。

**09 10月5日[土] | 見学+講義 | VUILD/unico 1F | デジタルファブリケーション** × **地域 | 秋吉浩気** [VUILD株式会社CEO・アーキテクト]

**10 10月29日[火] | 講義 | コンピュータショナルデザイン×建築情報学 | 豊田啓介** [noizパートナー、gluonパートナー、AI-FEEDパートナー]

## PROJECT 6 1970年代から現在を考える2

70年代、住宅で自閉的に様々な表現を試みた建築家達も、80年代が近づく頃には社会との接続の新たな形を模索するようになり、そんななか著書が邦訳されたアレグザンダーの理論は広く議論の対象となりました。パタンランゲージを用いて国内で唯一実現した盈進学園東野高校を見学し、当時を良く知る関係者に解説を頂きます。その理論に社会との再接続を託した建築家達の葛藤や試み、挫折、そして残ったものを見つめ直しつつ、現在の私達への示唆や学びについて語る場を設けます。

**11 11月** (日程調整中) | **見学会 | 盈進学園東野高校** (1985年、クリストファー・アレグザンダー設計) | **解説者** (調整中)

**12 12月** (日程調整中) | **座談会 | 布野脩二** [建築計画・建築評論、日本大学特任教授] + **難波和彦** [建築家、界工作舎] + **モデレーター: 青井哲人** [建築史建築論、明治大学教授] | **聞き手** (依頼中): **中村健太郎** [建築家・プログラマー、NPO法人モクデン企画] + **辻琢磨** [建築家、403architecture[dajiba]]

## PROJECT 7 世界遺産近く、長崎教会建築群を巡る

五島列島に存在し、現在も信者の皆さんに愛され、維持されている、美しい長崎の教会堂を設計施工したのが、現新上五島町出身で富江藩の御用大工の家系に、明治12(1879)年に生まれた建築家、鉄川與助氏。ペリー神父やドロ神父に出会い、また、東大の塚本靖氏の推薦で建築学会に入会し、鉄筋コンクリート造を独学で学びます。その五島列島の教会群を孫の鉄川進氏の案内で巡ります。そのどれもが高度な建築技術に支えられています。また、愛らしい日本のステンドグラスの模様なども見えます。そして、今も感動するほどの見事な景観を保っています。

**13 14 12月13日[金]or 14日[土]-15日[日] | 1泊2日 | 見学会 | 鉄川進** [建築家、鉄川進一級建築設計事務所]

## PROJECT 8 中東の建築と、これを取り巻く状況を知る

石油依存の脱却を目指す中東は、ドバイを中心に金融、流通、観光などの新しい産業が成長し、世界中の資本が集まっています。それを証明するように、話題の巨大プロジェクトや有名建築家の仕事が続々と完成しています。そこで、ドバイを拠点に活躍する寺本健一氏の話をお伺い、ルーブル美術館(ジャン・ヌーヴェル設計)ほかを含めた新旧の建築に訪れる見学研修旅行を予定しています。

**15 16 17 18 2020年2月の連休の4泊6日程度(予定) | 寺本健一** [ibda design]

# JIA建築セミナー2019 | 募集案内 | 2019年6月23日 - 2020年2月(予定)開催 CPD申請中

定員 40名

受講資格 当セミナーに興味のある方、若手設計者ほか

講習期間 2019年6月23日 - 2020年2月(予定)

見学会等の集合場所・時間ほかは、追ってお知らせします。

会場 JIA館(原則)

住所: 東京都渋谷区神宮前2-3-18 | TEL: 03-3408-8291

交通: 地下鉄銀座線外苑前駅 徒歩8分/JR千駄ヶ谷駅 徒歩10分/JR原宿駅 徒歩12分

受講料 一括払い: 140,000円(分納、ご相談承ります)

見学・宿泊等の交通費、食費等は実費となります。見学以外の講座では、原則、講師と受講生との交流のために各回1コイン(500円)の懇親会を開催しています。お時間の許

す方は、ご参加下さい。

申込方法 受講希望者は氏名・住所・連絡先(TEL/FAX/E-mail)を明記し、事務局までFAXか、郵送にてお申込下さい。追って、ご連絡いたします。

なお、都合により変更になる講座もありますので、予めご承知置き下さい。

主催 公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部

企画運営 公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部 JIA建築セミナー実行委員会

JIA建築セミナー事務局(担当: 佐藤由巳子)

申込・問合せ先 公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部 JIA建築セミナー事務局

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館4階

TEL: 03-3408-8291 | FAX: 03-3408-8294